

NMO OfficeLetter

南丹美山でワーケーション利用が広がる

8月15日の京都新聞記事によると、京都府南丹市美山地区での「ワーケーションプログラム」が好評だと言う。リフレッシュしながら働けると、都会からの利用者が着実に続いている。新型コロナウイルスの感染が、まだ拡大する中で密を避けることができる地方でのワーケーションの需要は、今後も続くのではないかと期待が高まる。利用者は、他府県からもあるが京都市内の事業者



南丹美山地区



美山地区ワーケーションスペース

の利用者も多い。地元の食材を楽しみながら、通常の仕事もはかどる。NETの環境が整っていれば、業務によってはほとんど支障がないという。開放的な環境、自然との調和、ゆったり流れる時間など、喧噪で騒々しい慌ただしい都会の日常生活とは一線を画して、精神的には非常にリフレッシュできるという。一般の企業勤務の会社員だけでなく、大学生などがゼミの合宿に利用し、その合間にオンラインで就職説明会に参加する。通信環境さえ一定レベルで確保できれば、今後も多くの利用スタイルが考えられる。地元の協会では、さらに一層PRに注力し、南丹美山にぴったりのワーケーション利用を伸ばしたいと意気込んでいる。

＜解説＞一時に比べるとトーンダウンしたように感じる「ワーケーション」。「ワーク＝働く」と「ヴァケーション＝休暇」の造語だ。むしろ日本人の受け止め方としては、休暇を過ごしている中で一定の時間仕事をこなすというイメージが強い。ここで言う休暇は、年次有給休暇を連続して数日取得し、住居のある地域から少し離れた地域で休暇を過ごしなが、その中で一定の時間を業務に費やす。日本人は、長期間の連続休暇を取得することをあまりよしとしない文化がある。いったん勤めだすと、長期間の休暇が取れるのは、結婚したときと親の不幸のときに限られるという、笑えないジョークもある。



ワーケーションイメージ



ワーケーションイメージ

しかし、働き方改革の機運が徐々に浸透し、加えて新型コロナウイルスの感染もなかなか収まらない。その中で、一定の期間オフィスや職場を離れて、長期の休暇をリフレッシュのために過ごすことは大事だろう。ただ、長期に休まれると業務に支障が起こる場合も出る。その際に、パソコンやタブレットを持参し、通信環境が整っていれば、短い時間を業務に従事すれば長期の休暇を過ごすことも可能だろう。海外では一定期間の長期休暇は当たり前の国が多い。日本でも、今後このような働き方が徐々に浸透してくる可能性がある。地方活性化の大きな切り札になる。